

イベント開催情報 レコメンドシステム

為平 航

坂本 寛樹

梶野 航

西尾 水希

川口 陽

イベント参加のもたらす価値と現状

- ❑ 学生こそ、イベント参加から最大のリターンを得られる
 - ❑ 実践的な学びへの接触
 - ❑ 日常を超える感動と刺激
 - ❑ 感性・情緒の豊かさ
 - ❑ 多様なコミュニティとの接点
- ❑ しかし、私たちはその価値を享受できていない

環境分析

- ❑ 情報過多とタイムリーな把握の困難
 - ❑ SNS・Web・掲示板
 - ❑ 全体像を把握
- ❑ 既存プラットフォームの限界
 - ❑ 自社サイトの情報しか収集しない
 - ❑ ユーザー本人の潜在的な興味を捉えきれない
 - ❑ 能動的な検索が前提で、通知が貧弱



課題

❑ 発見難易度の高さ

- ❑ 自分に本当に合うイベントを、膨大な情報の中から確実に見つけ出すことができない

❑ 認知・時間コストの負担

- ❑ イベントを探し、比較・検討し、申し込むまでの一連のプロセスに、過大な手間と心理的ストレスがかかる

目的

- ❑ 興味に合うイベントの情報を締切前に確実に届け**見逃しゼロ**へ
- ❑ **探す**のではなく**届く**状態を実現し、情報取得にかかる時間とストレスを削減

解決手法

❑ 包括的な情報収集

- ❑ あらゆるチャネルからイベントを自動で集約

❑ 対話的パーソナライズ

- ❑ チャットでのワンクリック入力で学習

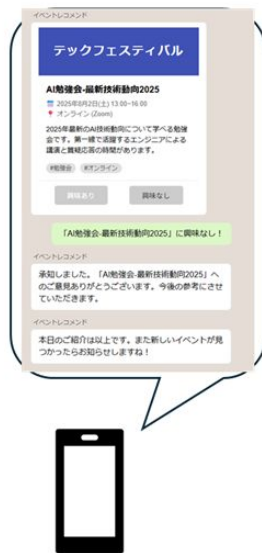
❑ 生活導線への統合

- ❑ Sack／LINE など日常のチャット上で通知

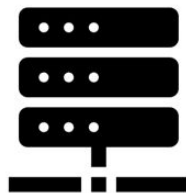
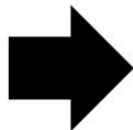
ユーザ体験のイメージ

1. チャットに「週末の〇〇フェス（残り申込 2 日）」が届く
2. 「興味あり」を押すと、そのままカレンダーに予定が入る
3. Botが「明日 10:00 開場です」と再通知
4. イベント終了後もフィードバック
5. これら評価を踏まえ、より好みに合ったイベントが届く

実装手法 / 全体像



LINEなどで興味
あるorなしを送信



フィードバックをもとに
推薦モデルを再学習



興味あり
カレンダーに登録



おすすめイベントを
リマインダー

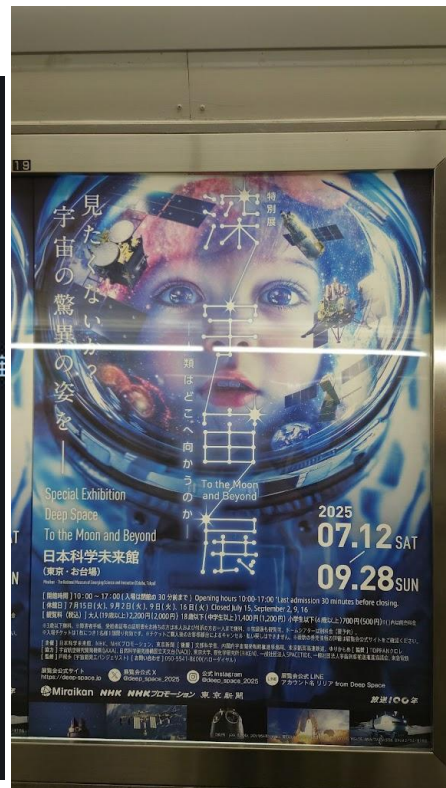
実装手法 / 情報取得

1. API連携
2. Webスクレイピング
3. LLMを活用したユーザー投稿



実装手法 / 情報取得

```
{  
  "event_name": "特別展 ディープ・スペース Deep Space To the Moon and Beyond",  
  "event_date_start": "2025-07-12T10:00:00",  
  "event_date_end": "2025-09-28T17:00:00",  
  "location": "日本科学未来館 (東京・お台場)",  
  "organizer": "日本科学未来館, NHK, NHKプロモーション, 東京新聞",  
  "target_audience": "一般 (3歳以下無料、障がい者およびその付添1名無料)",  
  "summary": "人類はどこへ向かうのか、見たことのない宇宙の驚異の姿をテーマにした特別展。深宇宙  
  "source_type": "image",  
  "source_data": "event_flyer.jpg",  
  "tags": [  
    "#特別展",  
    "#宇宙",  
    "#科学",  
    "#未来館",  
    "#展示会"  
  ]  
}
```



実装手法 / 推薦システム

- ❑ 機械学習による推薦機能
 - ❑ BERTなどの言語モデル
 - ❑ フィードバックが蓄積されるたび再学習



ユーザーの好みの反映

まとめ

❑ 現在完成しているもの

- ❑ 基本的なベースのUI
- ❑ イベント情報取得システム

❑ 今後行うこと

- ❑ 推薦システムの開発
- ❑ フォアグラウンドとバックグラウンドの統合

